

丸窓電車保全活用活動

取組に至る背景・事業の目的

1928年新造のモハ5251形（通称：丸窓電車）は、1986年に第一線を退き、上田電鉄別所温泉駅に静態保存されていたが、2011年4月16日にさくら国際高等学校へ搬入され、保全活用に取り組むことになった。

この電車は60年にわたって塩田平（上田・別所温泉）を走り続け、地域の人々の通勤・通学、また地域産業の発展の原動力となってその生活を支えてきた「文化財」である。

したがって、この歴史的・文化的価値を持つ丸窓電車を未長く保存し、次世代に伝えることそれ自体に大きな意味がある。また、この丸窓電車を素材とし、補修作業の段階から「教育・青少年育成・地域交流・地域観光の発展・地域交通の利用促進等に寄与する」ところまで、この取り組みを通して実現していく。

しかし車両の腐食は極度に進んだ状態であり、早急に活動を開始する必要があった。

事業内容

2012年8月31日（金）には、「丸窓電車補修工事見学・体験会」を開催し、18名の地域・全国からの参加者と共に40名の生徒と一丸となって補修工事を実施した。さくら国際高等学校の伝統食、生徒の手作りカレーを振る舞い、多くの方々に喜んでいただいた。

補修工事が終了した10月に、正式に丸窓電車の引き渡しと、今後の活用に向けて取り組むためのヒントを得るため、「丸窓電車リレートーク講演会」を開催した。テーマを『丸窓電車を通して見る地域の歴史と文化』と題し、地域の歴史・文化・観光資源としての丸窓電車等についてお話をいただき、次年度以降の事業計画を練ることができた。



【地域の方々と共に車内補修】

事業効果

「補修工事見学・体験会」については、マスコミ等にも取り上げられ、完成後に丸窓電車を見学した見学者は2か月で60組を超えた。また、リレートーク講演会は167名の参加者があり、講演者と参加者が双方向で話す姿も見られ、温かみのある良い講演会になった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 「丸窓電車」を使って残す・・・キャッチフレーズ『コミュニティトレイン』
- 丸窓電車句会の実施計画
- 定期的な補修と点検

【選定のポイント】

住民と生徒が協力した補修活動の実施や、地域の交通路の歴史や文化を学ぶ講演会の開催により、丸窓電車という地域の財産を通じた教育機関と地域の連携を実現した。

保育園や地域への開放について生徒による委員会を立ち上げるなど、今後の活用が期待される。

団体名	NPO 法人 さくら育英会（上田市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0268-39-7707 （さくら国際高等学校内）	事業費	3,098,573円
		支援金額	2,171,000円